

資料 8 「港湾空港局における北九州市行財政改革取り組み結果」

「北九州市行財政改革（経営プラン）取組結果」より抜粋

平成 13 年度

	項目名	実施概要
1	響灘地区大水深港湾整備への公共残土受け入れ	造成費の節減を図るため、埋立用材等に必要な土砂を購入する代わりに公共の残土を利用。 【見直し効果】763百万円
2	太刀浦コンテナターミナルの荷役機械設備の有効活用	既存の冷凍コンセント盤を再利用することにより、機械設備の経費を節減。 【見直し効果】45百万円
3	若松ふ頭荷さばき地の有効活用	遊休地化している若松ふ頭荷さばき地の一部を駐車場として有効活用。平成13年4月実施済。 【見直し効果】8百万円

平成 14 年度

	項目名	実施概要
1	港湾施設巡回業務の見直し	太刀浦地区の港湾施設巡回業務を委託化。 職員数2人削減。
2	港湾施設維持工事の見直し	港湾施設維持工事の効率化を図るため、西部工事事務所における積算・監督業務の一部を民間委託化。 職員数2人削減。
3	日明2号クレーンの廃止	採算性の低い日明2号クレーンを廃止することにより、維持管理経費を削減。 【見直し効果】32百万円
4	響灘処分場護岸工事における監視業務の見直し	響灘処分場護岸工事における船舶による監視等の業務について、海上作業の少ない時期の業務体制を見直すことにより、経費を削減。 【見直し効果】5百万円
5	若松ふ頭荷さばき地の有効活用	遊休地化している若松ふ頭荷さばき地の一部を、駐車場用地として有効活用。 【見直し効果】1百万円
6	響灘地区大水深港湾整備への公共残土受け入れ	埋立用材として公共残土を有効活用することにより、造成費を節減。 【見直し効果】630百万円

平成15年度

	項目名	実施概要
1	港湾施設の見直し	施設の集約化、効率化を推進し、維持管理コストの抑制を図るため、老朽化した田野浦1号クレーンを廃止。 平成15年6月実施。 【見直し効果】11百万円
2	港湾施設維持工事の見直し	業務の効率化を図るため、港湾施設維持工事の一部を委託化。 平成15年4月実施。 【見直し効果】8百万円

平成16年度

	項目名	実施概要
1	港湾管理運營業務の見直し	東部及び西部港湾事務所における施設の申請・許可等の窓口受付業務の委託化を実施。 【見直し効果】12百万円
2	港湾情報システム管理・運用業務の見直し	港湾施設の管理運営支援や統計業務を行う「港湾情報システム」の管理・運用を、北九州e-PORTセンターに外部委託化することによりシステムの安定稼働とセキュリティ強化を実施。 【見直し効果】1百万円
3	港湾施設維持工事の見直し	港湾施設維持工事業務の一部の委託化を実施。
4	除草業務の見直し	道路、河川、港湾等において実施されている除草業務について、委託先や積算方法の見直しを行い、土木施設の維持管理コストの削減を実施。 【見直し効果】35百万円（建設局・経文局と合同）
5	港湾施設補修方法の見直し	港湾施設の補修にあたり、安価な新素材を活用し、経費を縮減。 【見直し効果】7百万円
6	新門司マリーナ(株)の解散	社会経済状況の変化により、経営が厳しい状況にある新門司マリーナ(株)を解散し、営業譲渡により北九州埠頭(株)に業務及び体制を引き継ぎ。

平成17年度

	項目名	実施概要
1	港湾管理運営業務の見直し	東部及び西部港営事務所における巡回等の定型的業務について、委託範囲を拡大するとともに、バース指定業務の一部を委託化。 【見直し効果】15百万円
2	臨海部産業用地貸付制度の導入	企業の土地取引の状況に対応し、企業誘致活動における競争力を確保するため、分譲地に貸付制度を導入。

平成18年度

	項目名	実施概要
1	バース指定業務の委託化	北九州港の公共岸壁の利用調整を行うバース指定業務について、平成17年度の一部委託化に引き続き、業務委託を拡大実施。 【見直し効果】5百万円
2	港湾振興業務の見直し	港の振興・PR業務について、事務の効率化を図るため、北九州港振興協会との役割分担の見直しを実施。
3	東西港営事務所の統合	港湾施設の管理運営を行う東西の港営事務所を統合し、組織を簡素効率化。 【見直し効果】31百万円
4	港湾施設の有効活用	耐用期限が近づき更新が必要となる太刀浦コンテナターミナル設置のガントリークレーン2基について、新規購入の代わりに、小倉コンテナターミナル設置のクレーンを移設し再活用するとともに、更新経費を大幅軽減。 平成18年度は1基を撤去の上移設。 【見直し効果】669百万円

平成19年度

	項目名	実施概要
1	整備部門（管理課、計画課、整備課）の事務部門一本化	整備部門各課ごとに行っていた、庶務・経理担当など諸事務を集約し事務を効率化。 【見直し効果】8百万円
2	空港企画室の見直し	北九州空港の開港により、航空ネットワークの形成や乗客・貨物の確保などソフト部門を中心とした組織へ再編。 【見直し効果】29百万円
3	日明コンテナ埠頭㈱の清算による経費の減	日明コンテナ埠頭㈱を精算し、市の出資金を回収するとともに業務委託契約を終了して経費を削減。 【見直し効果】23百万円
4	小倉コンテナターミナルの利活用・RORO船への転用	ひびきコンテナターミナルの開港にともない小倉コンテナターミナルを廃止し、新たにRORO船の利用を中心とした「多目的ターミナル」として活用。 【見直し効果】12百万円
5	門司6号岸壁背後旧日本セメント跡地の利用	門司6号岸壁背後の国有地に立地していた、旧日本セメント（現太平洋セメント）門司サービスステーション跡地を、荷さばき地として有効活用。
6	港湾施設の有効活用	耐用期限が近づいた太刀浦コンテナターミナル設置のガントリークレーンについて、新規購入に代え、廃止した小倉コンテナターミナル設置のクレーンを移設し再活用することで、更新経費を大幅に軽減。 【見直し効果】697百万円
7	日明用地（関門航路事務所との交換用地）の有効活用	国土交通省九州地方整備局関門航路事務所の市外移転を回避し、そこでの雇用や市内業者の事業参入機会を確保するため、同事務所が所在した国有地を市有地と交換。港湾機能を備えた取得地を有効活用し、日明地区の埠頭機能を高めた。

平成20年度

	項目名	実施概要
1	日本海峡フォーラムの見直し	北九州市、下関市、青森市、函館市の海峡を有する4市が開催してきた日本海峡フォーラムについて、実施方法を見直し、事務・経費負担を軽減した。
2	港湾整備特別会計の経営健全化	港湾整備事業について、地価の下落による資産価値の減少等により、数年以内に特会全体の実質収支が赤字になる懸念があるため、積極的な企業誘致による分譲促進や有効な資金対策など、経営健全化に向けた具体策を検討した。
3	(社)北九州港振興協会補助金の節減	(社)北九州港振興協会について、研修会・講演会等の協会主催事業の見直しを図ったこと等により、市からの補助金を削減した。

平成21年度

	項目名	実施概要
1	北九州港のPR・セールス経費の見直し	北九州港のPR・ポートセールス実施において、セールスツール作成経費等の見直しや広告媒体・内容等PR手法の見直しなど、活動内容を精査して効率化を図り、経費を削減した。
2	港湾整備特別会計の経営健全化	港湾整備特別会計の資産状況や他都市で行われている健全化の事例などについて調査を行うとともに、課題の一つである資産と負債のバランスを正常化させるための方策について、これまでの調査をもとに検討した。
3	港湾施設に係る維持管理経費の見直し	港湾施設の維持補修に係る経費のうち、修繕費について対象箇所を集中・選択的に見直すことにより、経費の削減を図った。

平成22年度

	項目名	実施概要
1	港湾整備特別会計の経営健全化	港湾整備特別会計が長期的に持続可能な会計であり続けるための健全化策について、会計が所管する資産の状況や他都市の健全化事例の調査などをもとに検討を行い、港湾整備特別会計の経営健全化策をとりまとめた。 平成22年7月に健全化策を議会へ報告し、実施に着手した。
2	船舶動静表示システム導入による業務委託の見直し	北九州港の公共岸壁等に離着岸する船舶の離着岸時間判定をAIS（船舶自動識別装置）データを活用した船舶動静表示システムで行うことにより、経費を削減した。
3	港湾施設に係る維持管理経費の見直し	港湾施設の維持補修に係る経費のうち、修繕費について、施設の状態を精査・見直すことにより工事対象箇所の絞込みを行い、経費削減に向けて取り組んだ。

